

JSカチオンエポ #10

塗厚 1～3mm

カチオンエポ #10は、カチオン系アクリルエマルジョンと水性エポキシエマルジョンを組合わせた特殊ポリマーセメントモルタルです。特に、ウレタン等の防水仕上げにおいて、高接着性を必要とする床面及び壁面への下地調整材として御使用頂けます。

■ 特長

1. コンクリート面に対して、極めて高い接着力強度を有しております。
2. 異種下地(エポキシ・鉄面等)に対しても、高い接着力強度を有しております。
3. 適量の骨材(珪砂)を加えると、不陸調整・欠損補修等が可能です。
4. 早強タイプであり、短期間(施工の翌日)で強度発現し軽歩行が可能です。
5. コテばなれが良く、作業性が極めて良好です。

■ 使用用途

- 各種防水仕上げにおいて、コンクリート面の下地調整(1～3mm)
- 異種下地面への接着バインダー(エポキシ・鉄面 等)
- 珪砂を加えて、コンクリート面の不陸調整、欠損補修等(10mm程度まで)

<通常の素地調整>

■ 標準配合

粉 体	主 剤	硬化剤
13kg	2kg	2kg

■ 標準施工面積

比重(容量)	1.68Kg/ℓ(約20.2ℓ/34Kgセット)	
施工面積 (34Kgセット当り)	塗厚1mm	塗厚3mm
	約20.2㎡	約6.7㎡

■ 混練り

予め、主剤(2kg)と硬化剤(2kg)を計量して容器に採り、軽く攪拌して下さい。
その後、粉体(1袋ー13kg)を投入しハンドミキサー等を持用いて十分に混練りして下さい。
※主剤・硬化剤は必ず計量して下さい。
粉体は全量投入して下さい。
少量ずつ御使用される場合は、上記の比率(重量比)で必ず計量して下さい。

■ 施工方法

①下地調整の確認

下地面が強靱であることを確認し、ホコリ油脂等は除去して下さい。
その後、水洗い洗浄し乾燥させて下さい。

②塗り付け

混練りした材料をコテで最初しごき塗りし、直ちに所定の厚みに塗り付けて下さい。

③養生

降雨等を避け、硬化するまで養生して下さい。

<不陸調整、欠損補修>

■ 参考配合

粉 体	主 剤	硬化剤	珪砂(5号 or6号)
13kg	2kg	2kg	3～6kg

※混練り、施工方法は上記と同様。

試験結果

下地の種類		接着強度 (N/mm ²)	備 考
コンクリート	乾燥	2.64	
	湿潤	2.14	
ウレタン床材		2.72	
アクリルウレタン		2.09	
エポキシ床材		2.30	
アスファルトプライマー		2.45	油脂分残存に注意
ゴムアスファルト		0.92	油脂分残存に注意
FRP		2.59	表面サンディング（パラフィン層除去）
水系塗料（アクリル系）		2.74	
溶剤塗料（アクリルウレタン）		2.42	
塩化ビニル		1.12	可塑剤の有無で異なる
クリンカータイル		1.98	
カラーコンクリート		1.98	表面サンディング
テラゾー		2.01	
ケイ酸塩系コンクリート強化材		1.78	表面サンディング
鉄板		1.83	表面サンドペーパーで研磨
溶融亜鉛メッキ		1.92	表面サンドペーパーで研磨
ステンレス		1.80	表面サンドペーパーで研磨

試験条件

- ・試験場所 菊水化学工業株式会社
日本スタッコ技術試験室
(標準養生室内:20℃ 65%RH)
- ・塗厚 1mm
- ・標準養生(20℃、65%RH)で7日間養生を継続
- ・建研式接着力試験機で接着力強度を測定

施工上の注意

- 混練りの際は、セットされている主剤・硬化剤・粉体と、充填材として用いる珪砂以外の異種物質（セメント等）は絶対に加えないで下さい。
- 材料の足し、練り戻しは避けて下さい。
- 気温が5℃以下、又は35℃以上の場合は施工を避けて下さい。

保管上の注意

保管条件

雨露を避け湿気の少ない場所で保管して下さい。

荷姿

カチオンエポ	34kgセット		
主 剤	4kg(ポリ容器入り)	} ダンボールケース入り	
硬化剤	4kg(ポリ容器入り)		計 8kg
粉 体	13kg(紙袋入り)×2袋		計26kg

安全上の注意

- セメントのアルカリ分・エポキシ等で皮膚の炎症をおこすおそれがありますので、使用時は保護メガネ・保護手袋などの保護具を着用して下さい。
- 製品が目に入った場合は、ただちに水洗いをして、すみやかに医師の診断を受けて下さい。
- 製品が皮膚に付着した場合は、付着した衣類・靴をぬぎ、付着した部分を水を流しながら洗浄して下さい。皮膚に変化が見られたり、痛みがある場合はただちに医師の診断を受けて下さい。
- 製品を飲み込んだ場合は、すみやかに多量の水を飲ませ、吐かせた後、ただちに医師の診断を受けて下さい。
- 製品を吸入した場合は、水又は温水でうがいをして、ただちに医師の診断を受けて下さい。
- 室内で施工する場合は、換気を充分にして下さい。
- 取り扱い後は、顔・手・口などを洗浄して下さい。
- 漏出した製品が河川・下水道へ流入すると環境を汚染するおそれがありますので充分注意し、産業廃棄物として処理して下さい。

